

# 女子大生の衣生活にしめる既製服の 利用度の一考察 (第1報)

加 藤 恵 子・小島十九子・後 藤 喜 恵  
豊 田 幸 子・早坂美代子・古川智恵子

## A Study on the Degree of Utilization of Ready-made Suits by the Students of Women's College (Part 1)

by

K. KATO, T. KOJIMA, Y. GOTO, S. TOYODA,  
M. HAYASAKA and C. FURUKAWA

### 緒 言

日常生活の合理化に伴い、現代の衣生活は、ほとんど既製服で、まかなえる時代といっても過言ではないと思う。短期大学で洋裁を履習する学生の場合、在学中に製作する服は数点にかぎられ、卒業後、在学中に修得した知識や技術をその衣生活上いかすとしても、既製服を利用する機会が多いと思われる。しかし、既製の婦人服はここ数年の間に、きわめて急激な普及をみせたために、そのデザイン、材質、色彩など余りにも多種多様であり、かつ業者の売らんかなの宣伝過剰に伴って、消費者は必ずしも、その衣生活に最も適した服を正しく判断し、選択していると思えない例もしばしば見受けられる現状である。そこで筆者等は、本学の女子学生を対象に実態を調査研究して、今後の衣生活をより豊かに、より経済的に運営できる能力を養成するための基礎資料として調査したので、ここに報告する。

### 方 法

調 査 対 象：本学短期大学部学生 1497名

時 期：昭和43年9月（夏服）

昭和44年1月（冬服）

方 法：表1のごとく、設問項目によるアンケート用紙を用意し、回答させ集計した。

### 結 果 および 考 察

服種別所持枚数について、図1のごとく、既製服、自製作、注文服の割合を扇形グラフで見ると、夏服では、既製服 61.4%、注文 21.8%、自製作 16.8%、冬服では既製服 57.7%、注文 27.1%、自製作 15.2%で、いずれも既製服が最も多かった。

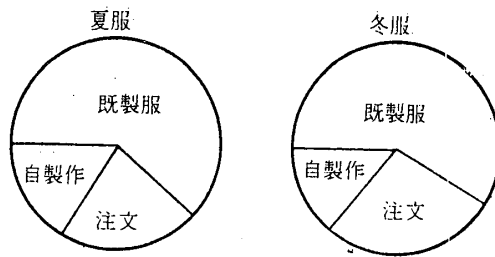


図1 既製服、自製作、注文別の割合

服種別に既製服、自製作、注文服の割合を図2によってみると、夏服のブラウスでは、既製服81.9%、自製作11.1%、注文7.0%である。スカートにおいては、既製服51.2%、自製作27.4%、注文21.4%である。ワンピースでは、注文40.4%、既製服34.3%、自製作25.3%である。スラックスでは、既製服87.5%、注文8.9%、自製作3.6%である。パジャマ、ネグリジェ（以下寝衣とする）では、既製服84.8%、自製作9.0%、注文6.2%であった。以上の服種は、冬服においてもほとんど同様の割合であった。なお、冬服のツーピースでは、注文62.1%、既製服31.2%、自製作12.2%である。オーバーコートでは、既製服53.4%、注文35%、自製作11.5%であった。以上の結果、夏・冬服共に、ブラウス、スカートにおいては、既製服が最も多く、

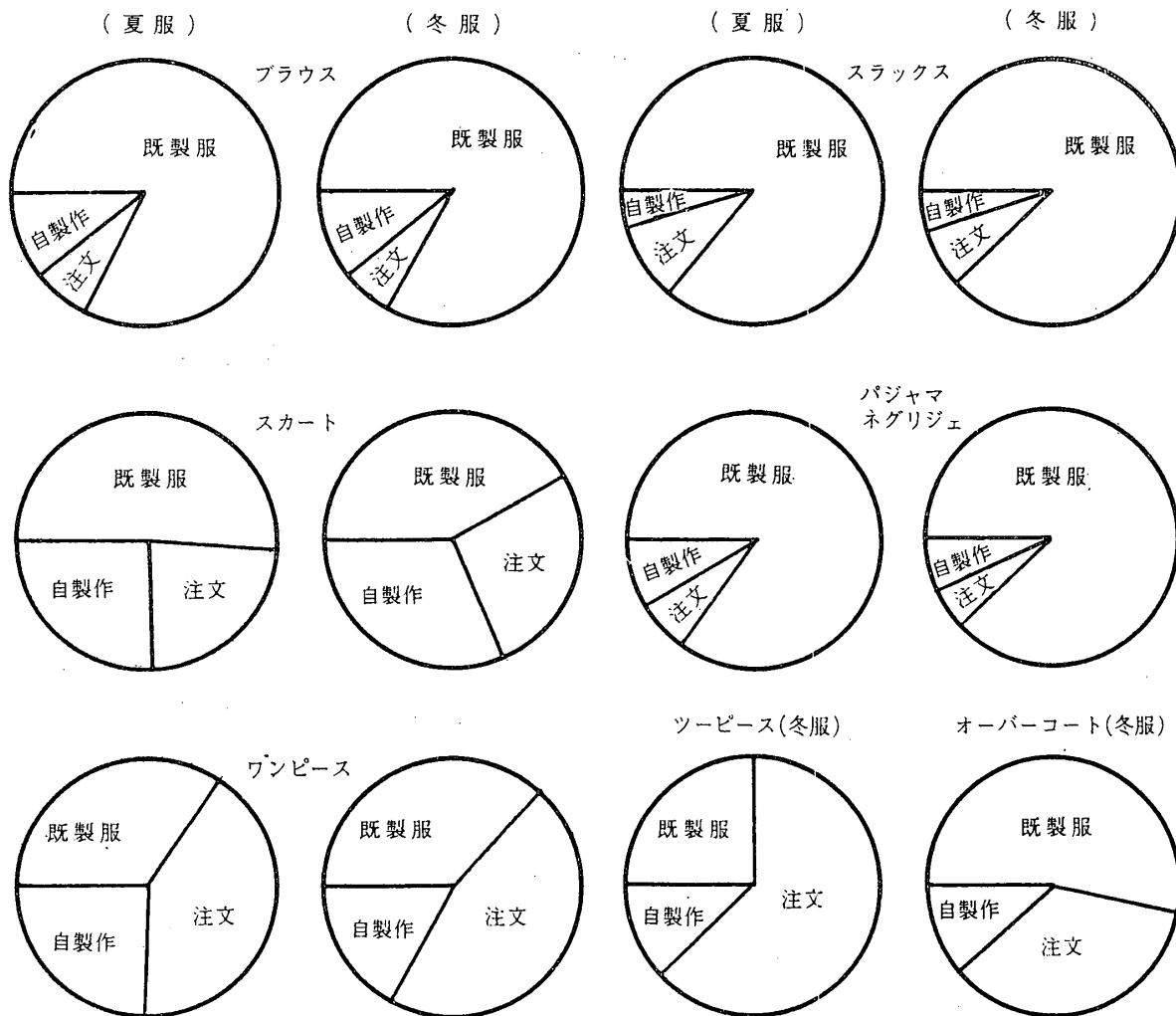


図2 既製服、自製作、注文服の季節別所持割合

表 1

## 女子大生の所持服について(夏服)

昭和43年9月調査

コース( ) 年齢( )

## 1. 服種別所持枚数

服種	ブラウス	スカート	ワンピース	ツーピース	アンサンブル	ブレザー	スラックス	レインコート	パジャマ	ネグリジェ
枚	既成服									
枚	自製作									
数	注文									

## 2. 現在持っている既製服の中で各項目につき特に多いものを選んで○印を入れて下さい。

服種	ブラウス	スカート	ワンピース	ツーピース	アンサンブル	ブレザー	スラックス	レインコート	パジャマ	ネグリジェ
購入	百貨店									
場所	専門店									
	洋品店									
柄	無地									
	格子									
	しま									
	プリント									
材質	木綿									
	絹									
	毛									
	化繊									

## 3. 現在持っている既製服の中で機能、縫製について①②のいずれかに○印をつけ③については下記の項目の中から番号を選び記入して下さい。

服種	ブラウス	スカート	ワンピース	ツーピース	アンサンブル	ブレザー	スラックス	レインコート	パジャマ	ネグリジェ
機能	①着易い									
	②着にくい									
縫製	①良い									
	②悪い									

## 機 能 (着にくい理由)

1. 衿ぐりがあきすぎ
2. 衿ぐりがきゅうくつ
3. 袖ぐりがゆるい
4. 袖ぐりがきゅうくつ
5. カフスがゆるい
6. カフスがきゅうくつ
7. 胸まわりがゆるい
8. 胸まわりがきゅうくつ
9. ウエストがゆるい
10. ウエストがきゅうくつ

11. ヒップがゆるい
12. ヒップがきゅうくつ
13. 股上が長い
14. 股上が短い
15. 股下が長い
16. 股下が短い
17. 裾口が広い
18. 裾口が狭い
19. 袖巾が細い
20. 袖巾が太い

21. 袖丈が長い
22. 袖丈が短い
23. 着丈が長い
24. 着丈が短い
25. 肩巾が広い
26. 肩巾が狭い
27. その他
28. その他
- 29.
- 30.

## 縫 製 (悪い理由)

1. 縫目があら
2. 袖付の縫目がほつれる
3. 衿付の縫目がほつれる
4. 股上の縫目がほつれる
5. 裾の縫目がほつれる
6. 衿付の縫代が少ない
7. 袖付の縫代が少ない
8. 脇の縫代が少ない
9. 裏が縮む
10. ベルトが縮む

11. ファスナーがこわれやすい
12. カギホックがとれやすい
13. ボタンスナップがとれやすい
14. 穴かがりがほつれやすい
15. ボタンと穴の大きさがあわない
16. ゴムがのびやすい
17. ゴムが切れやすい
18. その他
- 19.
- 20.

## 4. 既製服を購入する場合、下記のA～Eまでの条件について重要と思われる順序に符号を入れて下さい。

服種	ブラウス	スカート	ワンピース	ツーピース	アンサンブル	ブレザー	スラックス	レインコート	パジャマ	ネグリジェ
順序			外出着	家庭着						
1										
2										
3										
4										
5										
6										

A サイズが体に合う。

B 色が似合う。

C 材質が良い。

D 仕立てが丁寧である。

E 価格が適当である。

F デザインが好きである。

ワンピース、ツーピースにおいては、注文が既製服を上回っていた。これは流行のシルエットは、ワンピース・ツーピースが比較的表現しやすく、現在の流行はフィットアンドフレアーが主流をなしているの、既製服ではそれぞれの体型に合わせにくく、やはり注文服が多いと考えられる。以上の結果、既製服の利用者が多いことがわかったので、さらに既製服を取り上げて調査を進めた。

既製服の服種別購入場所の割合をみると、図3にみられるごとく、ブラウスでは、百貨店49.3%、洋品店29.6%、専門店21.1%、スカートでは、百貨店51.4%、洋品店28.2%、専門店20.4%、ワンピースでは百貨店37.2%、専門店35%、洋品店27.8%、スラックスでは、百貨店64.6%、洋品店22.6%、専門店12.9%、寝衣では、百貨店57.3%、洋品店31.7%、専門店11%で、どの服種においても百貨店が最も多く、ワンピースでは、他の服種に比べて専門店が高率を占めていた。以上の結果、百貨店、専門店、洋品店のうちで、各服種とも百貨店が一番多く利用されている。これは、百貨店が広い客層で種類が多く選択しやすい結果だと推察される。

柄別服種の割合を図4でみると、夏服では、無地68.5%、プリント19.3%、縞11.9%で、冬服では、無地70.0%、縞16.3%、プリント13.7%であった。夏・冬服共に、無地・縞では各服種とも差がなく、プリントにおいては他の服種に比べ寝衣が高率を占めている。次いで、ワンピースが多かった。以上の結果、無地が最も多いのは、プリント、縞に比べ無難であり、また他の服種やアクセサリとの組合せが容易であると考えられる。プリントにおいて、寝衣が高率を示しているのは、女子学生がプリントの持つ可愛らしさや色合いを主に楽しみ、他の服種のように他の物との調和などを考えなくてもよいからと思われる。

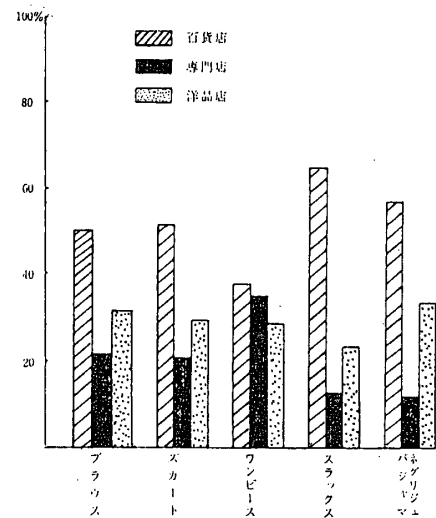


図3 服種別、場所別購入数

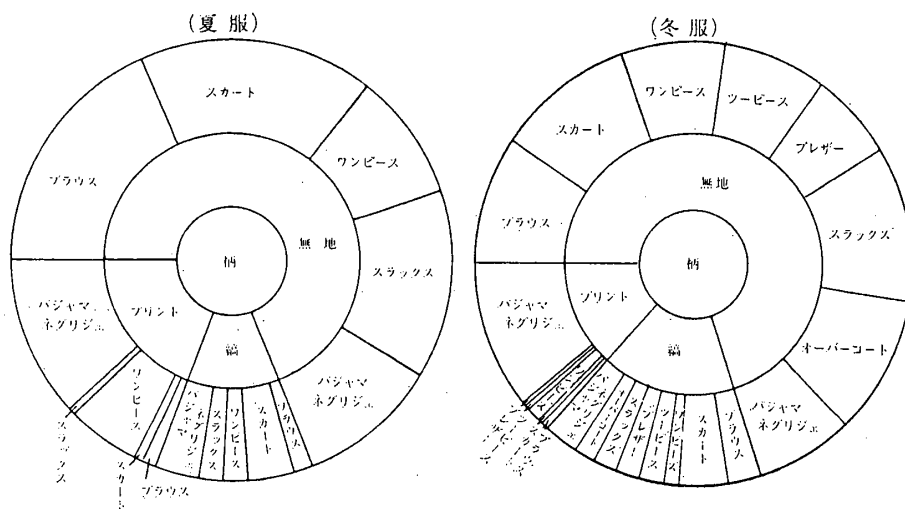


図4 柄別、服種別、夏・冬別の割合

最も多かった無地を取り上げて、無地の服種別色の割合を図5でみると、夏服において無地の各服種の割合は、ブラウス25.7%、スカート24.9%、スラックス20.6%、寝衣15.5%、ワン

ピース13.3%であった。さらに色の割合をみると、ブラウスでは、白87%、ブルー4.6%、ピンク2.3%であり、スカートでは、ブルー27.8%、黒19.3%、茶13.4%、スラックスでは、ブルー32.2%、グレー24.3%、茶17.6%

寝衣では、ピンク34.5%、ブルー27.2%、黄13.1%、ワンピースでは、ブルー31.%、白12.3%、茶10.3%であった。以上の結果、各服種ともブルー、白が高率を示している。これは夏服であるということから考えられ、また他の色との配色の適応性が大きいからと思われる。ブルーは文献などでも女子大学生の嗜好色として、ブルー系統が高く表われており、やはり流行色にとらわれず、学生色を選んでいるものと推察される。

主な服種別に材質の割合を図6で見ると、夏服では全体にみて、木綿化繊が最も多く、スカートでは他の服種に比べ、毛が高率を示している。

寝衣では、木綿が多くみられた。冬服においては、スカート、ワンピース、ツーピース、ブレザー、オーバーコートに毛が、ブラウス、スラックスでは化繊が、寝衣においては木綿が高率

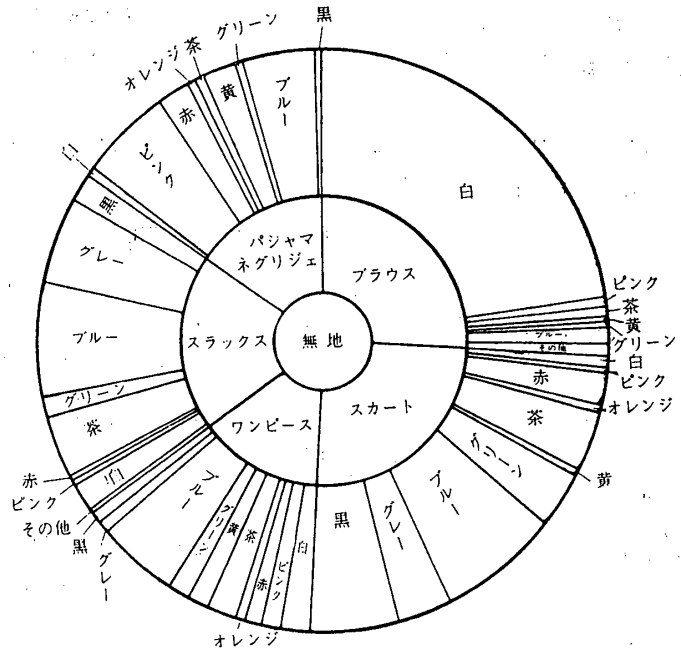


図5 無地の服種別、色別の割合

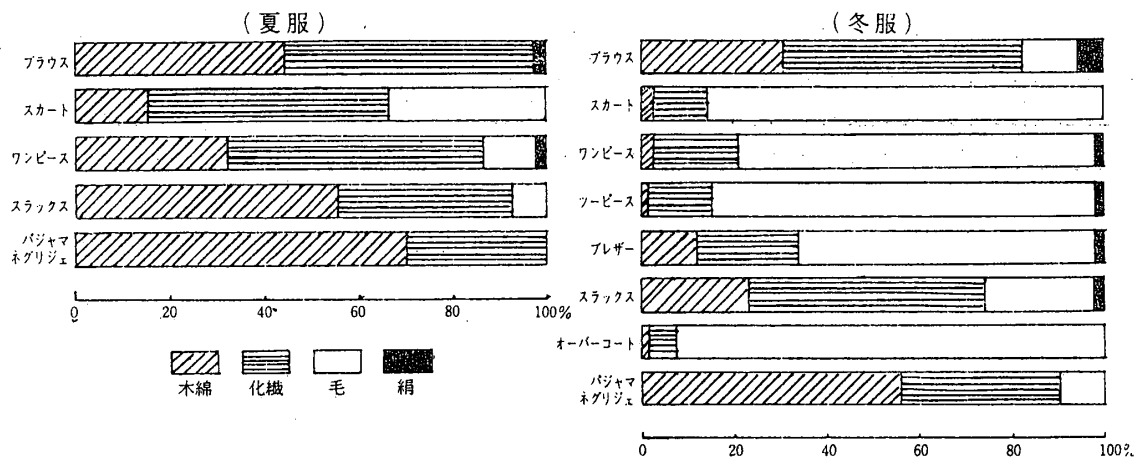


図6 材質別、服種別、夏・冬別の割合

を示している。以上の結果、全般的に化繊の進出がめざましいことが考えられ、なお冬服においては、毛が化繊を上回っているが、これは化繊の加工技術の向上により、毛と化繊の区別が付きにくいのではないかとと思われる。また最近の流行として、絹物が好まれ、国内消費量も年々増加しているが、ここでは学生であるので価格的にも高価であり、着用する機会が少ないので、その傾向が顕著に表われていないと思われる。なお各服種とも夏、冬服において服種に最も適した材質を選んでいると推察される。

機能面では、図7のごとくコース別、学年別に図示したが、二年服飾コースを除いて他はあまりコースの特色がみられないので、全体の平均値を取って服種別に比較した。まず夏服につ

いて、比較的体に合いやすいと答えた率を見ると、寝衣が最も高く89%を占めている。これは他の服種より比較的ゆるみが多くても、休養着のため、あまり着にくいと感じないのではないと思われる。次いで、レインコート72%，ブラウス66.8%，ワンピース59.5%，スカート54%，スラックス51.2%の順になっている。サイズを重視するもの程低い傾向がみられる。また二年服飾コースがどの服種とも95%以上の高率を占めているが、これは既製服購入時の選択が良く満足できるものを購入しているものと考えられる。冬服においても夏服と全く同傾向がみられるが、ツーピースは60.8%で、ブラウスに次いで着やすいと答えている。夏服のレインコートと冬服のオーバーコートは、服の性格は異なるが、機能面からみられる傾向は同様である。これは外衣であるため、他の服種に比較しゆるみが多く、着にくいと感じないのではないと思われる。

次に服種別に、着にくいと答えた理由を図8でみると、サイズを重視するスカート、スラックスは他の服種に比べかなり多くの理由があげられている。スカートは、ウエストがゆるすぎる32%，ヒップがゆるすぎる20%，ヒップがきゅうくつ18.4%，ウエストがきゅうくつ9.5%の順となっている。スラックスでは、ウエストがゆるすぎる19%，ヒップがきゅうくつ18.4%，股上が短い14.8%，ヒップがゆるすぎる12%の順になっている。次にブラウスでは、胸まわりがゆるい14%，肩巾が広い13%，袖ぐりがきゅうくつ12.9%，袖ぐりがゆるい11.%などの理由がみられる。ワンピースにおいては、着丈が長い18.6%，着丈が短い9.2%が特に目立ち、その他はブラウスとほとんど同様な理由が上げられている。レインコートは、着丈が長すぎる38.4%が、特に目立ち、その他は肩巾が広い12.8%，次いで袖丈が長い11.5%の順になっている。ネグリジェは、比較的着にくい理由は低率となっているが、中でも特に目立つ理由は、衿ぐりが明きすぎ17%，袖ぐりがきゅうくつ14.8%となっている。パジャマは、衿ぐりが明きすぎ17.9%，股上が短い13.4%，股上が長い10.7%，ヒップがきゅうくつ8%の順となっている。冬服も夏服と同傾向であるが、ブラウスにおいて、袖丈が長いと言う理由が最も多く見られ、夏服と異なる点である。ツーピースはヒップがゆるい12.4%，ウエストがゆるい10.8%，肩巾が広い9.4%，胸まわりがゆるい7.8%，袖丈が長い7.9%，ヒップが

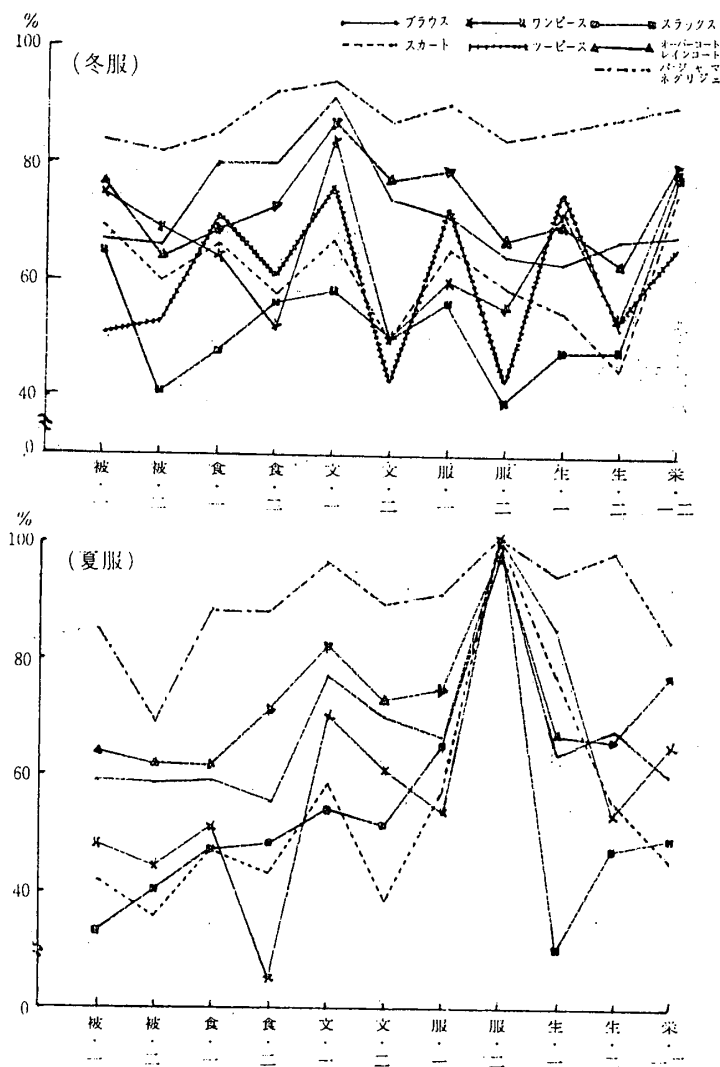


図7 着やすさについての服種別コース別満足度

きゅうくつ6.9%など着にくい理由が上げられている。以上の理由をまとめてみると、上衣では、袖ぐりがきゅうくつ、肩巾が広い、胸まわりがゆるい。下衣では、ウエストがゆるい、きゅうくつ、ヒップがゆるい、きゅうくつ、股上が長い、短い。寝衣では、衿ぐりが明きす

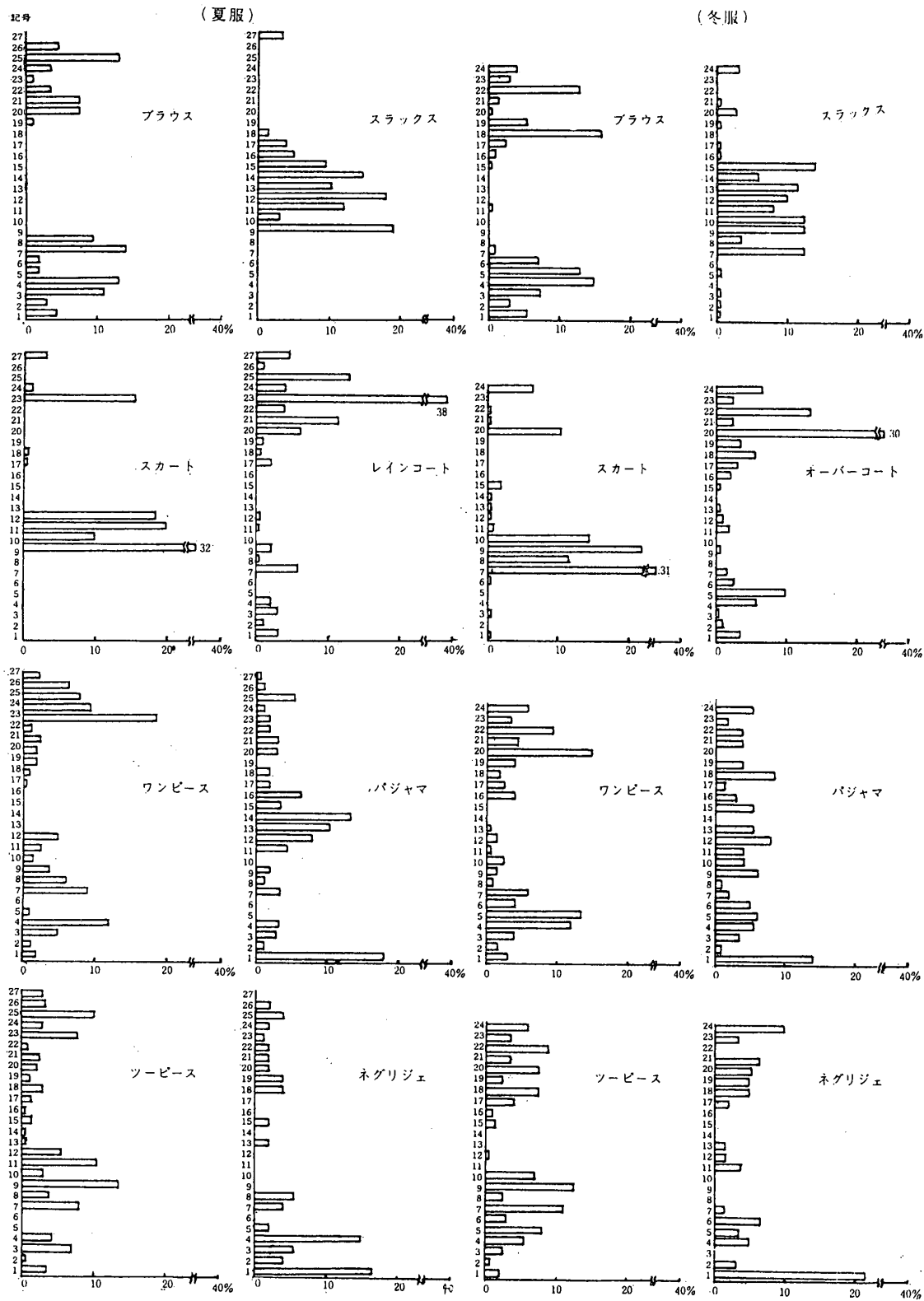


図8 機能（着にくい理由）についての服種別割合

ぎ、袖ぐりがきゅうくつなどの理由が多くみられた。これらの理由は、やはり既製服のサイズに問題点があると思われる。

縫製についても図9で示すごとく機能と同様、コースの特色がみられなかったので、平均値をとって服種別に比較をした。夏服の縫製について、良いと答えた率を服種別にみると、各コースともレインコートが最も高率を占め84%、次いでワンピースが高く70%、スラックス68%、寝衣63%、スカート57%、ブラウス47%の順になっている。冬服も夏服と全く同様の傾向がみられる。冬服のワンピースは74%でコートと同様かなり高くなっている。夏服において、二年服飾、生芸が他のコースに比較して各服種とも特に高率を占めているが、これは機能面と同様、よい選択眼をもって購入するものと思われる。次いで縫製が悪いと答えた理由を図10でみると、各服種とも、ボタン、スナップ、カギホックがとれやすい22.8%、縫目があらい22.5%が最も多く、次に股上縫目がほつれる19.7%、ファスナーがこわれやすい14.6%、穴かがりがほつれやすい12.3%、裾の縫目がほつれる11.5%、袖付縫目がほつれる10.6%の順になっている。冬服についても同傾向である。

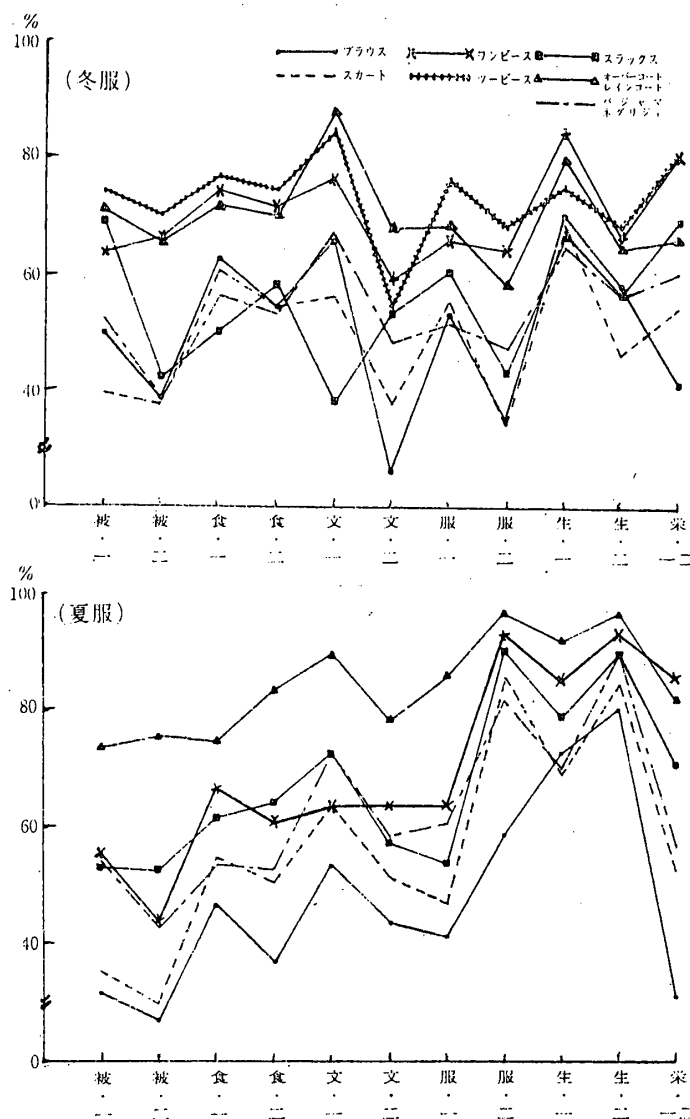


図9 縫製についての服種別コース別満足度

本学生の既製服の利用度がかかなり高いことが図2で把握されたので、この項ではその「既製服購入時の条件の順位」夏・冬服ともに、第一表の設問6項目についてまとめてみた。この場合今まで既製服の購入経験のないものでも、自分を買うと仮定して記入させた。その結果を図11のごとくコース別、服種別に購入順位1位について考察すると、夏服は全体的にみてブラウス、スカート、寝衣においては材質が平均23.4%でその服種の中での購入順位としては第1位をしめている。サイズを重視する服種の中においては、スラックスは平均75.1%、スカートは58.2%といちじるしく他の順位より高率をしめている。第2位に示されているのは、スラックス、スカート、レインコートの服種において色が高率を示している。これは組合せの関係上と、レインコートはデザインが大体限定されているので色の感覚で選択するのではないかと考えられる。ワンピースの家庭着は価格が第2位をしめている。他の服種においては価格が最下位



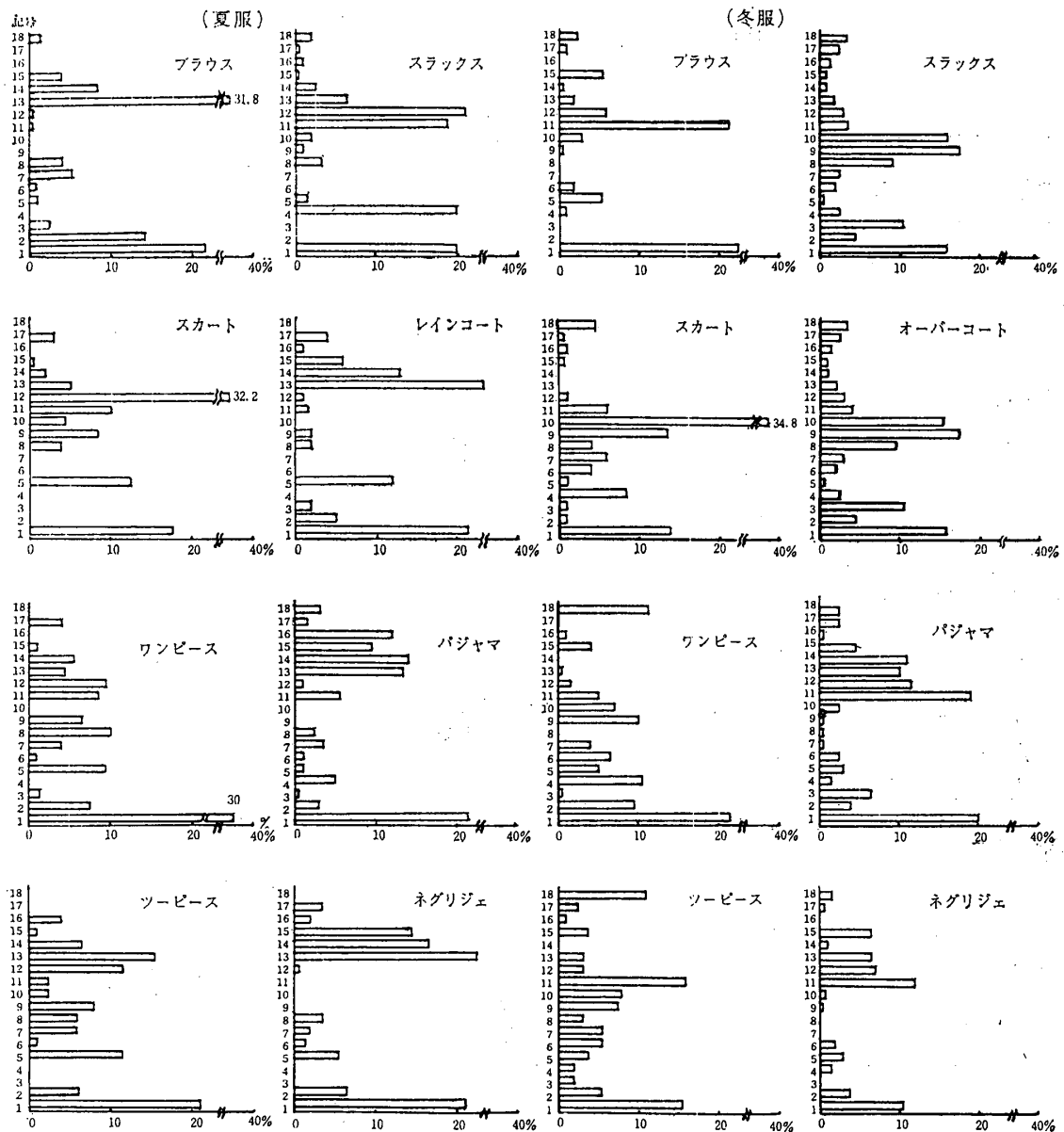


図10 縫製について、項目別、服種別不満足度

に位置している。これはワンピースの家庭着はまず体に合っ（サイズ）安価であれば、自分の希望に叶うとみているものが多いことがうかがえた。第3位についてみると、デザインを重視しているのにスカート、ワンピース（家庭着）、スラックス、レインコートにみられて、ブラウス、ワンピース（外出着）、Tシャツ、寝衣においては色を第3位にあげている。

次に冬服についての購入順位をみると、Tシャツ、スラックス、寝衣の服種においては、グラフは夏と全く同じ様相をしめしている。夏・冬服の購入順位の異なるのは、寝衣にみられ、夏・冬服とも材質が第1位にあげられている。これは他の服種と異なり、洗濯に耐えうる材質を選ぶことが最も大切な条件であるとの常識的な判断がここに現われたものと考察される。その他の服種においては、全部サイズを第1位にあげているのがみられる。その中でもスラックスは約75.5%、スカートは約59.4%と夏と同様に特に高率をしめしている。このことはウェスト、ヒップ、丈などがその服種の重要なポイントになっていることを、充分認識していること

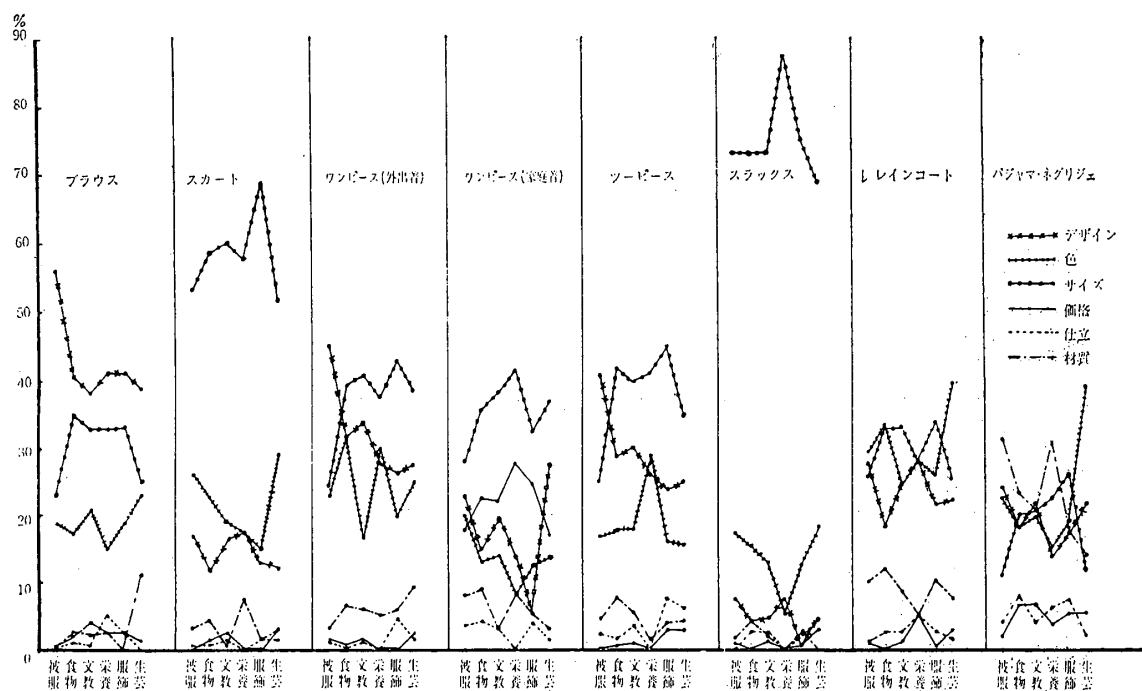


図11 既製服購入条件の服種別、コース別の実態（夏服）

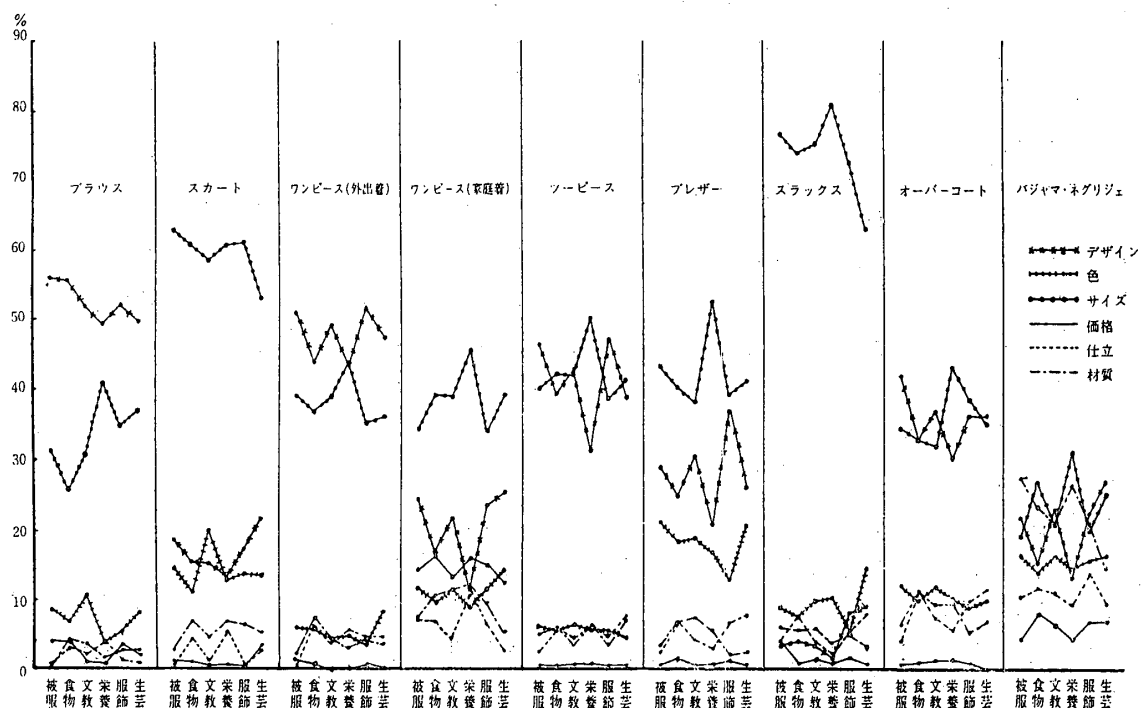


図12 既製服購入条件の服種別、コース別の実態（冬服）

を示すものである。条件の順位第2位のオーバーコートにおいては、夏のレインコートとは性格を異にするため、2位にデザイン、3位に色をあげている。これは冬のコートはデザイン的にも豊富に種類があるため、夏と順位が2、3位が入れかわったと考察される。ワンピースの家庭着では第2位に価格、冬服ではデザインを示している。3位では夏はデザイン、冬は価格と、2、3位が夏・冬服全く入れかわっている。このことは夏の家庭着は、着用枚数が多く必要であるから、価格の点もよく考慮され、冬服は材質が毛織物になり、価格も高価になるので

夏のように手軽に購入出来ないため、先づデザイン的に自分の希望に叶うものを厳選するので、価格は第3位になるものと思われる。その他の服種において第2位、第3位の購入順位は、全く同様の結果が見られた。

## 要 約

- 1 自製作、注文、既製服の割合のうち既製服利用者が最も多いが、服種別ではワンピース・ツーピースにおいて注文が多い。
- 2 既製服の購入場所は百貨店、専門店、洋品店のうちで、百貨店が最も多い。
- 3 既製服の柄では無地、プリント、縞ののうち無地が最も多く、そのなかでもブルー、白が最も好まれている。
- 4 材質では化繊が多く、又寝衣では木綿が多くみられた。
- 5 機能面で最も問題点となるのはウエスト、ヒップなどが合わないと感じたサイズを重視するスカート、スラックス等である。ブラウス、ワンピース、ツーピース等では袖割がきゅうくつ、肩巾が広い等が多くあげられた。
- 6 縫製面での問題点は各服種とも付属品がとれ易い、こわれやすい、縫い目が粗い、縫目がほつれる、縫代が少ない、穴かがりがほつれ易い等であった。
- 7 既製服購入時の学生の態度は寝衣においては、材質にポイントをしぼり、スカート、スラックス等ではサイズを顕著に重視している適切な購入態度がみられた。
- 8 価格においては夏の家庭着をのぞく他の全ての服種において、学生の経済的意識がきわめて低かった。

以上の結果から学生の衣生活における既製服の利用度がきわめて高いことが把握出来たが、その問題点である機能面では衣服サイズの種類が少なくその表示において、大・中・小、L・M・S、号数などの違いはあるが、我が国ではまだ段階が少ない上に、これらのサイズの増減が各々同比率となっている。この中で適当と思われるものを一種選んでもそれぞれ、身体各部のプロポーションが違っているため適切なフィットが得られず、満足出来ないものと考えられる。又縫製面では特に服種別に大差はみられないが、全体の服種を通して、特に縫い目があり、各部分とも縫いしろが少ない、縫い目がほつれる、付属品がとれやすい、こわれやすい等の理由が目立つ。これらは既製服メーカーが利潤を上げるため、縫製面では特に、縫いしろの節約、付属品等は品質の低下、付け方の乱雑さが目立つ。又縫い目がほつれるなどの理由は、縫いしろが少ない上、サイズの不適當、材質の不適當、及び運動量の不足、着方などにも問題点があると思われる。したがって消費者の立場から、今後の既製服業界に要望することは、豊富なサイズ段階に加えて、平面サイズだけでなく、体型別、立体的なカッティングをも含んだサイズ表示である。

又学生の既製服購入態度は、比較的合理性に富み、常識的に選別していると見られるが、全ての服種において、学生の購入時の経済的意識が極めて低く現われている。これは、親の経済に全てを依存しているせいであると考察されるので、この点において今後の洋裁教育の中で経済的感覚を認識させると共に、機能面、縫製面においての問題点を更に掘り下げて補正箇所、補正方法等を検討したい。

本研究にあたり調査にご協力いただいた本学々生に、あつく御礼申し上げます。

## 参 考 文 献

- 1) 宮下孝雄 (1968) 基本配色学 P 102~105
- 2) 日本染色工業研究会 (1969, 6) 染色工業 P 4
- 3) 日本人間工学会 (1969, No. 2) 人間工学 P 108~109